

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191700046		
法人名	有限会社ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ温		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金303-1		
自己評価作成日	令和6年1月29日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの個性を大切に、生活を支えるという一方的な関係ではなく一緒に生活を送ることで、利用者の安心や自信を引き出し「笑顔のある穏やかな生活を目指します」(ケア理念)ホームには両ユニットの真ん中にテラスがあり、手作りの木製ベンチに座り、中庭の花や野菜の畑が眺められます。テラスにテーブルを出し食事をすることもあります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JikyosyoCd=0191700046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和6年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームすえひろ温(ぬくもり)は、福祉のまち今金町の閑静な住宅街に位置しています。法人では、小規模多機能事業所やもう1か所のグループホーム、居宅介護支援事業所を運営し、地域の高齢者を支えています。理念として「笑顔のある穏やかな生活を目指します」を掲げ、毎日笑い声の絶えない生活を提供しています。事業所では、利用者一人ひとりの気持ちや意向を踏まえた支援を行うために、センター方式のアセスメントを行っています。地域とのつながりを感じ、生活者としての尊厳を感じてもらえるよう、利用者が地域のコンビニに出かけ、好きなものを自分でお金を払って購入するなどの行事を実施し、生活の意欲につなげています。利用者と家族とのつながりも大切にしており、事業所便りには利用者の写真を多く掲載し、利用者のコメントを添えることで、自分の家族の様子だけでなく、どんな人と一緒に暮らしているのかも家族に伝えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、ユニット会議で理念を復唱し、実践に努めている。	開設時からの理念である「笑顔のある穏やかな生活を目指します」を職員会議で唱和しています。事業所の名称に込めた、「末永く」あたたかな笑い声があふれたメリハリのある生活を送れるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りの再開に伴い山車見学など、地域等の交流も少しは再開できた。	コロナ禍が一段落し、5類に変更となったことで地域行事への参加を再開しています。行事の際には、地域の子どもたちが訪問し、玄関先から見学しています。今後は、地域を招いた事業所の祭りの復活を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	温新聞、インスタでホームの様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	家族にはホームでの様子等を報告している。	運営推進会議は法人3施設合同で行っています。現在は感染状況にあわせて書面会議としています。地域や行政からの幅広い参加があり、事業所運営のモニター役を担っています。議事録は家族に送付し、事業所の玄関にも備え付けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査等で情報共有したり、必要に応じて電話連絡し合っている。	役所との連絡調整は本部が中心となって行っています。利用者の要介護認定の調査で認定調査員が訪問した際の対応を行っています。また、行政が主催するリモート研修にも参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加後に職員会議で報告、職員間で情報共有している。 夜間のみ施錠している。	令和5年度は、身体拘束等の適正化対策検討委員会を年度末までに4回開催する予定となっています。委員会への職員の参加に加え、身体拘束のグレーゾーン事例について話し合いを持ち、身近な問題として考える機会を設けています。	委員会の開催と職員への意識づけを行っていますが、マニュアルを振り返る機会や、体系的な学習の機会が不足しています。定期的に職員全員が身体拘束について学び、スピーチログを含め支援の実践をチェックする仕組みを作っていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加後に職員会議で報告、職員間で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、利用されている方がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が説明、理解を得られるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から思いをくみ取り、家族の面会、電話の際にもうかがい、反映するよう努めている。	玄関に意見箱を設置し、誰でも意見を投函できるようにしています。コロナ禍で感染予防のため、家族との面会がガラス越しになったり、人数制限を設けたりしていた時期には、意向を受けてリモート面談を導入しました。利用者の意見は、暮らしの中の会話から汲み取っています。	家族の意見を聴取するため、来訪時や電話での連絡時に希望がないかを確認しています。しかし、漠然とした質問になりがちのため、家族が答えやすい質問を工夫し、意見を聴取することを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議で意見交換を行っている。	職員はユニット会議や業務の中で意向を表出し、管理者が取りまとめて本部に伝えていきます。また、職員会議には法人代表も参加し、職員から直接意見や提案を受けています。毎年、法人として職員全員に対し個人面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前は個人面談を行っていた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会等に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向等を傾聴し、信頼関係の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談等で伺い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援について、本人・家族・ケアマネ・病院の相談員から聞き取りを行い、職員間で話し合いながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サポートしながら本人の持っている力が発揮できるように対応している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報共有し、信頼関係を築きながら、本人を支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行っている。	本人の希望を受けて、事業所の送迎で馴染みの美容室に通っている利用者がいます。また、ひ孫や家族に会いたいという希望には家族に連絡を取り、実現しています。事業所の秋祭りでは、昔馴染みの人と話したり、利用者が会いたいと伝えた人の来訪を促しています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題の提供など、利用者さん同士が楽しく過ごせるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町で会った際、挨拶をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、ユニット会議で話し合い、意向の把握に努めている。	日常的な会話や行動から好きなこと、希望を汲み取っています。また、認知症の進行や性格などに合わせて意思を表明しやすい方法を工夫しています。口頭でどちらがよいかを訊ねることが難しい場合は写真を見せて選んでもらうなど、理解しやすい方法や答えやすい工夫をして、本人本位な生活ができるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	伝達ノートを活用し、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用している。 本人、家族の要望等を聞き、ユニット会議で話し合い、介護計画を作成している。	本人のありのままの声と行動、場面をもとに、本人の視点に立って考えるセンター方式のアセスメントを実施しています。その上で利用者と家族の意向を聞き取り、職員が参加して、利用者が安心して生活できるよう、その時に必要な支援を盛り込んだ計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、伝達ノートに記入し、情報共有をし実践、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて職員同士が連携を取り、様々な支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年の秋祭りは、山車見学が行えた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けている。 (今金国保病院、今金診療所、八雲総合病院精神科) また、必要に応じ外来受診を行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続する利用者が多く、ほとんどの利用者が毎月の訪問診療を利用しています。町外の専門科の受診は家族の対応となっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時は相談し、病院受診をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護連絡書を提出し、退院時に病院より看護要約をもらい、情報交換に努めている。 また、病院に出向き、多職種から情報を得ることもある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、病院と相談の上、支援に取り組んでいる。 看取り指針は、家族より同意書を頂いている。	入居前から、利用者と家族の終末期の意向を聴取し、地域の医療環境も踏まえた上で話し合いを行っています。入居時には重度化や終末期の方針を改めて説明し、同意を得ています。終末期の場合は口から食べることができるかなど本人の状況に応じて最も安楽に生活できるよう医師の意見を交えて入院などの検討をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施(年2回) 非常食の備蓄	令和5年度は日中と夜間想定で2回の火災避難訓練を実施しました。訓練で見いだされた課題についての検討も行っています。また、事業継続計画(BCP)も法人で作成しており、年度末までに事業所に設置し、職員と共有する予定となっています。	訓練は、火災想定のみとなっています。BCPIに定めた自然災害に対応する訓練を行っていくことが求められます。災害時の地域との連携や法人内の他施設との協力関係をあらかじめ定め、構築していくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声のトーン等に注意しながら、一人ひとりに合わせ対応している。	職員は、信頼関係を深めるよう利用者の話をよく聞き、一人ひとりの違いを受け止めるようにしています。利用者の価値観を大切に、利用者が傷つくような職員の言動や場面をなくすようにしています。一対一の話では他の人に聞かれないようにし、安心して話ができる環境を作っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをし、自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った身だしなみ、馴染みの美容室への送迎。 訪問カットを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い等を把握し、代替えを工夫し提供している。 調理の下ごしらえ、食事の後かたづけをしてかれている。	ユニットごとに調理する食事は、季節感や利用者の好みを反映しています。出前や行事食、自分で好みのおやつを買いに出かけるなど、食事への意欲が増し、楽しく食べられるように工夫しています。食事を楽しむ場面を事業所便りでも家族に伝えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量、形状を工夫し提供している。 水分チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行っている。 必要に応じ介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っている。	利用者の排泄パターンを把握して、歩行状態などの身体状況に合わせて声掛けを行っています。また、退院時などにオムツを使用している場合でも、排泄の自立度の向上を目指し、職員が検討して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況等を把握し、水分摂取量の確認と促し、食事内容の見直し、運動の声かけ、肛門マッサージ等を行う。 また、医師に相談し下剤調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々に合わせて入浴して頂いている。 拒否時には無理せず、次回へつなげている。	利用者ごとに週2回の入浴を支援しています。利用者の意思を尊重して、無理強いすることがないようにしています。入浴時は職員と一対一でゆっくり会話を楽しむようにしています。入浴の拒否がある場合は、気分が向くように毎日声掛けをし、気分が向いた時を逃さずに入浴支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや居室で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更等は個人記録、伝達ノートに記入し情報共有に努めている。 誤薬のないよう確認し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、レク等でも気分転換が出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏はテラスで外気浴をしたり、ドライブにも出かけている。	気候の良い時期にはテラスでの外気浴を行っています。ドライブや外出行事も行っています。また、家族に会いたいなどの希望がある場合は連絡を取り、冠婚葬祭の際も家族との外出がスムーズにできるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話、手紙等はあるが、自らはない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾り等で季節が感じられ、楽しんでもらえるよう工夫している。 室温、湿度に気配りし、冬場は居室、ホールに保湿タオルを施行している。	各ユニットの居間には小上がりや神棚があり、午前中は利用者全員でゲームを楽しんでいます。ユニット共有の玄関前ホールでの合同行事なども企画し、広々とした空間を活用して閉塞的な生活とならないよう工夫しています。事業所内は25度に保たれ、事業所内の温度差が生じないようにし、湿度は60%となるよう管理しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子があり、自由に座り過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に過ごせるよう、家具の配置やなじみのある物などを置くなど工夫している。	利用者にはできるだけ使い慣れた家具を持ってきてもらうよう伝えていきます。好きな本や家族写真などで飾り、自分の部屋と認識して安心して過ごしてもらえるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレの場所をわかりやすく表示している。 入浴時にはスベリ止めマットを使用している。		